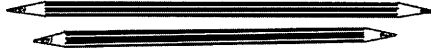


# 雪嶺集

〈宮坂静生 鑑〉



益子から黒羽へ

小林貴子

初めての人と思へず夏料理  
生きること藍に教はり藍を刈る  
埋められて仕事する甕青嵐  
かめのぞき色といふ色水無月へ  
涼風や木綿以前を語り出す  
鶏のむちやくちや元気柿の花  
窯場なる般若心経半夏生  
薄暑なり今はつめたき登り窯  
鮎釣の竿低めては立て直し  
螢狩岩上諒磨現るる

同人会員研修会